

【授業科目】 高度実践看護学 Advanced Practice Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
吉田 和枝	4年次前期	選択	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要／社会構造の変化により、医療現場は、少子高齢化、医療技術の進歩、チーム医療の推進等により看護師の役割が拡大されている。諸外国におけるAdvanced Practice Nurse(APN)の動向と日本における高度看護師教育とその認定制度とについて講義する。また興味のある専門看護師(CNS)・ナースプラクティショナー(NP)や認定看護師(CN)についてグループワーク行い、今後の各自の看護の方向性について議論する。課題に対するフィードバック方法／各自の興味のある課題に対し毎回授業内で進捗状況を発表し全体コメントを行う。第7-8回授業では、高度実践看護学に関するテーマに関して発表し、総評を授業内で提示する。							
実務経験に関する授業内容	長く臨床現場で勤務し、看護師として専門資格(スペシャリスト)を海外で取得した教員が、海外の医療の現状や日本におけるスペシャリストの活動について教授する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野でヘルスケアシステムにおける看護の専門性ならびに関連する多職種の機能・役割を理解し、連携して地域社会に貢献することができる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①高度実践看護師の制度が発展してきた背景について理解することができる。 ②諸外国におけるAPNについて理解することができる。 ③高度実践看護師の定義について述べることができる。 ④高度実践看護師の役割機能について述べるすることができる。 ⑤専門看護師、ナースプラクティショナー、認定看護師の違いを説明することができる。							
時間外学習に必要な内容・時間	第1～4回事前・事後学習：高度実践看護師の現状と課題、専門看護師の種類と教育課程にについて書籍、インターネット等により情報を得る。講義で学んだことを振り返るために事後課題を課すことがある(各30分) 第5～6回事前・事後学習：高度実践看護学に関するテーマについて、学びを深めプレゼンテーションの準備を進めていく(各30分) 第7～8回事前学習：テーマについての効果的なプレゼンテーションを行うため、パワーポイントの作成および発表練習をしておく(各60分) 第7～8回事後学習：発表の振り返りとともに、レポートを作成する(60分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回：日本における高度実践看護師の歴史および必要性と医療の現状 第2回：諸外国におけるAdvanced Practice Nurse(APN)の現状 第3回：日本の専門看護師(CNS)・ナースプラクティショナー・認定看護師(CN)の種類と教育課程 第4回：CNSおよびCNの活動について 第5-6回：テーマの確認、発表方法の検討、発表の資料作成 第7-8回：プレゼンテーション、意見交換、まとめ							全て吉田
評価方法 評価基準	プレゼンテーション 30%、グループワーク 30%、レポート 40%							
教科書	特に指定しない。			参考書等	日本看護系大学協議会HP 日本看護協会 日本専門看護師協議会HP等			
学生への助言等	将来を見据えて学修することができる科目です。積極的な意見交換をしましょう。							